



多田 勉 議員
(清風会)

健康なまちの推進と 地域保健について

健康なまちの推進と 地域保健について

問 今、地域保健に対して、専門技術職員(保健師等)の業務のあり方が問われている。地域に密着した活動を展開すべく、施策の具体化を図るべきでは。

答 専門技術業務は、複雑かつ多様化し、業務量が増大していると捉えている。現在、保健師は5課8係に14人が配置されており、地区センターをはじめ、関係部署と連携をしながら、保健師、看護師、栄養士がそ

れぞれノウハウを活かした対応をしている。

業務が多様化、複雑化する中、専門職OBである地域づくり専門員3人、OB看護師11人が健診率の向上や支援活動に取り組んでいる。

保健師の分散配置で、活動が見えにくくなっているとの指摘だが、地域一丸となった保健活動の推進を常に検証している。市内17会場で、383人が参加してICT健康塾の事業を行い、高血圧症の3割以上が改善傾向の数値を得た。

「ねつと・ゆりかご」は、開設5年になるが、妊産婦支援活動も進めており、23年度の出生数は187人で、新生児と乳児の訪問指導は98.3%となっている。地域の活性化のため、マップを活用しながら体

制の更なる充実を図りたい。

問 23年度は17年度に比べ、脳血管疾患、ガン、高血圧性疾患、心臓疾患での死亡が増加している。家庭訪問や訪問指導が、現場からの「気づき」という部分に結び付いているか。

答 22年度の死亡原因は、1位がガン、2位心疾患、3位脳血管疾患で、56%以上を占めている。23年度はガン検診で28人が早期発見された。特定健康診査の24年度受診率目標が65%に対し、23年度実績は49.6%で、花巻市に次いで2番目の高受診率。メタボリックシンドローム症候群の方々に対して、管理栄養士が6か月継続して栄養、運動等の特定保健指導を行い、

37%の方が解消した。今後、保健師、看護師の役割を位置付け、環境を整えながら内容の充実を図る。

捉えるかが大切で、その思いを受け止め、あきらめず希望を持って愚直に問題に取り組む。

問 旧沢内村が取り組んだ乳児死亡率ゼロ達成は、保健師の家庭訪問が基となった。当市が目指す健康なまちづくりへの貴重なポイントになるのでは。

答 深澤旧沢内村長の勇氣と実行力は、村民の命を守るという金字塔であった。命と地域の健康をどう



特定保健指導中の様子

一括質問
方式